

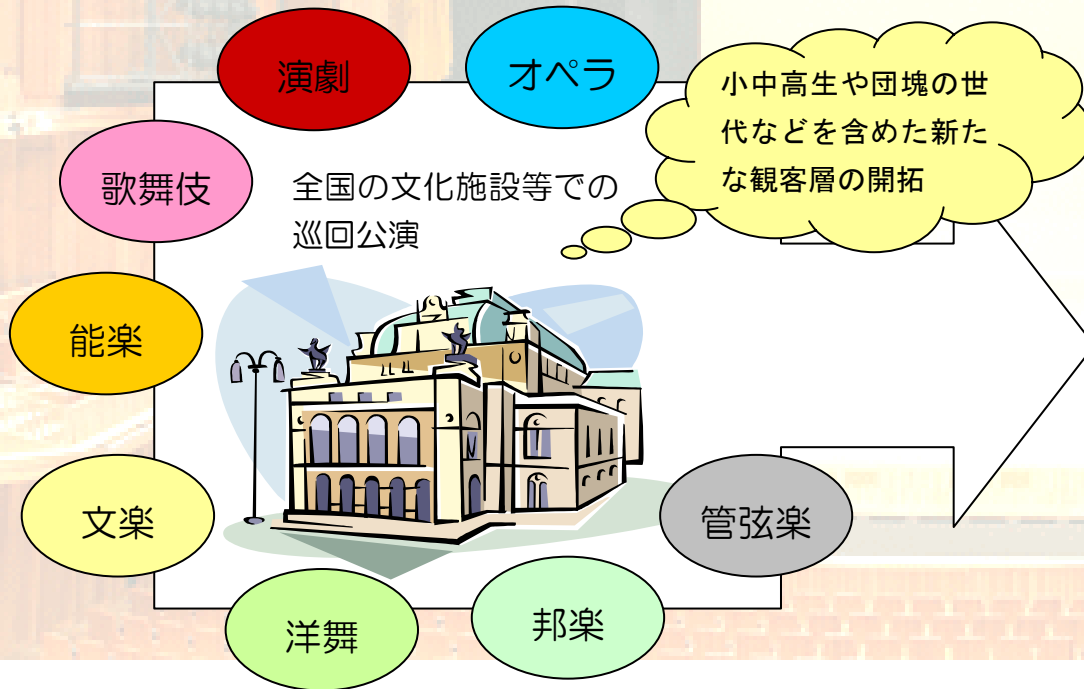
①事業名	【88】舞台芸術の魅力発見事業	
②主管課及び関係課(課長名)	(主管課)文化庁文化部芸術文化課(課長 鬼澤 佳弘)	
③施策目標及び達成目標	<p>施策目標8-1(芸術文化活動の振興)</p> <p>達成目標8-1-1 優れた文化芸術への支援を継続し、芸術創造活動を活性化させる。</p> <p>達成目標8-1-3 子どものための学校等における芸術文化に触れる機会の提供を継続し、芸術文化の普及活動水準を向上させる。</p> <p>達成目標8-1-4 地域の特色ある文化の力(「文化力」)を様々な分野に活用するとともに地域と芸術家・芸術団体の連携による新たな芸術活動を展開することにより、地域における文化芸術活動を活性化させる。</p>	
④事業の概要	全国の文化会館で魅力ある舞台芸術の巡回公演を行う。その際、「舞台の見どころ」の解説を加え、舞台芸術の魅力をアピールすることにより、新たな観客層を開拓する。	
⑤予算額及び事業開始年度	<p>予算額 816百万円</p> <p>事業開始年度 平成19年度</p>	
⑥広報計画	<p>【ターゲット】本事業は、一般国民のうち、舞台芸術に特にいままで触れてこなかった人々を主なターゲットとして広報活動を進めていくものである。</p> <p>【メッセージ】本事業の展開に当たっては、特に舞台芸術について、正しく誤解のないように理解してもらい、支持(遵守)してもらうことを目指す。</p> <p>【媒体】本事業の展開に当たっては、情報発信には主にホームページを用いる。</p> <p>【タイミング】本事業の展開に当たっては、随時ホームページ等にて情報発信を行う。</p>	
⑦事業開始時において得ようとした効果	〔拡充事業の場合のみ記入〕	
⑧得られた効果	〔拡充事業の場合のみ記入〕	
⑨得ようとする効果及び上位目標との関係	<p>【得ようとする効果】</p> <p>舞台芸術の魅力をアピールし、芸術に触れる機会を提供することで、芸術創造活動の活性化が図られるとともに、地域において文化芸術に触れる機会が拡大するという効果が期待できる。</p> <p>【上位基本目標・達成目標との関係】</p>	<p>⑩達成年度</p> <p>平成21年度</p>
	<p>施策目標8-1における目的は、「我が国の芸術文化水準を向上させるとともに、国民全体が、芸術文化活動に参加できる環境を確保する」ことであり、本事業が効果をあげることにより、芸術文化に触れる機会が一層増えることから、総合的かつ一貫した振興が図られると考えられる。このため、本事業の施策目標達成に対する貢献度は高く、本事業を実施することが妥当と考えられる。</p> <p>また、平成14年12月の文化審議会答申「文化芸術に関する基本的な方針」において、国の講ずる施策として「文化芸術と教育、福祉、医療その他の分野の連携が図られ、地域で人々が様々な場で文化芸術を鑑賞し、参加し、創造することができるよう、芸術家等および文化芸術団体と、学校、文化施設、社会教育施設、福祉施設、医療機関等との間の協力の促進に努める」とされており、国として支援を行っていくことが必要不可欠である。</p>	
⑫効率性	<p>【事業に投入されるインプット】</p> <p>本事業の予算規模は816百万円。20年度以降においても単年度816百万円を予定。</p> <p>【事業から得られるアウトプット】</p> <p>本事業の実施により、全国各地において文化芸術に触れる機会が拡大される。また、各地域での取組による成果や効果、事業実施上の課題や工夫などが、先進事例として全国の自治体に紹介され、各地域での自主的な取組への刺激となる。</p>	

⑬想定できる代替手段との比較考量	<p>本事業は、地域文化の現状を踏まえ、文化審議会文化政策部会において整理した地域文化の振興にあたっての課題に対応して実施するものである。</p> <p>舞台芸術は総合芸術とも言われ、演劇的（演出や演技）、文学的（歌詞）、美術的（舞台装置や照明、衣装（いしょう））といったさまざまな要素で形作られている。日頃あまり舞台芸術に接する機会の少ない人々へ鑑賞機会を提供し、鑑賞方法の解説などを加えることによってその魅力を伝えていくことは、国民が生涯を通じて身近に文化芸術に触れる機会を増加させ、文化芸術活動の振興に十分に資するものと考えられる。</p> <p>以上から、本事業によって効果が効率的に得られるものと判断。</p>
⑭指標・参考指標	<p>全国の自治体における夜間等の舞台芸術の鑑賞機会提供数</p> <p>継続的に舞台芸術を鑑賞するようになった参加者数</p>
<p>効性</p> <p>効果の把握の仕方</p> <p>得ようとする効果の達成見込み及びその判断根拠</p>	<p>本事業における満足度を図るためのアンケート調査を実施するとともにマーケティング調査を実施し、鑑賞者の性別、年齢層、生活圏、交通手段など本事業実施前と後を比較した変化を見て、舞台芸術に関心を示した数などを把握する。</p> <p>本事業は、全国の文化会館において舞台芸術の魅力に触れてもらい、芸術文化に親しむ機会のあまり無い世代に対しその面白さや感動を味わってもらうことを目的としている。</p> <p>平成18年版「国民生活白書」によると、定年を迎えた男性にこれからの生き方、考え方を尋ねたところ、「これからは自分の生き方を大切にしたい」、「これからは閉じこもらないで外に出るようにしたい」、といった項目で、「そう思う」が「そう思わない」を大きく上回っており、第二の人生を積極的に過ごそうという意識を持つ人が多いことが読み取れる。このことから、本事業の得ようとする効果は十分達成可能であると判断。</p>
⑮公平性、優先性	[政策の特性に応じて、必要により評価]
⑯評価に用いたデータ・情報・外部評価等	
⑰備考	

舞台芸術の魅力発見事業

平成19年度要求額 816,271千円(新規)

全国の文化会館で魅力ある舞台芸術の巡回公演を行う。その際、「舞台の見どころ」の解説などを加え、舞台芸術の魅力をアピールする。特に、本格的な舞台公演を見る機会の少ない地方の人たちや、親子などに鑑賞機会を提供することにより、小・中・高生や団塊の世代なども含めた新たな観客層を開拓する。



豊かな人間性の涵養
文化の活性化